

八幡小学校の田植え体験が行われました

稲刈りの後、約半年の間、大きな変化がなかった棚田にも、水が張られ、各地で田植えの季節となりました。水が張られた棚田は、水鏡となって空を映し出し、最も印象的な景観へと変化します。

各地で田植え作業が進む5月22日(木)、あらぎ島(あらぎじま)において、八幡小学校3・4年生11名による田植え体験が行われました。これは、総合学習として取り組んでいるもので、有田中央高校清水分校の生徒も一緒になって作業を補助してくれました。

この日、あらぎ島を訪れ



た子ども達は、JA職員による説明を受け、今では田植えの主流となっている機械植えに高校生、小学生がそれぞれ挑戦しました。当初は慣れない機械操作にとまどっていた子ども達も、JA職員のサポートもあり、田植え機の操作を体験することができました。

次に、子ども達は、自分達が初まきをし、成長した苗を手に、ぎこちない手つきで田植えを始めましたが、高校生の声かけやサポートもあり、次第に慣れた手つきで楽しく作業を進めることができました。子ども達からは、「うまく歩けない、土の感触が気持ちいい」「楽しかった、またやってみよう」との感想が数多く聞かれました。

最後に、田植えで大変お忙しい中、子ども達のために準備をいただいた地権者やあらぎ島景観保全保存会のみなさまに感謝が捧げられました。このような手作業による農作業体験は、子ども達が成長した後も記憶として残り、土地や郷土に愛着を感じることもつながるなど、この地域の将来を担う子ども達にとつて大変貴重な体験であると考えられます。

